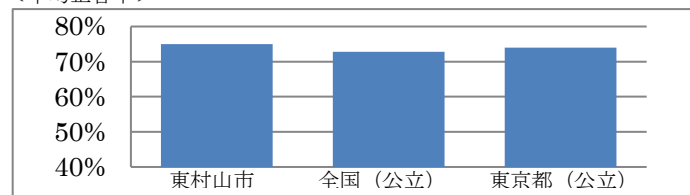


平成31年度全国学力・学習状況調査 調査結果から(中学校)

令和元年9月 東村山市教育委員会 指導室

【国語】

＜平均正答率＞



＜課題点＞

「読むこと」では、「文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつこと」に課題が見られた。また、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、「語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解すること」に課題が見られた。

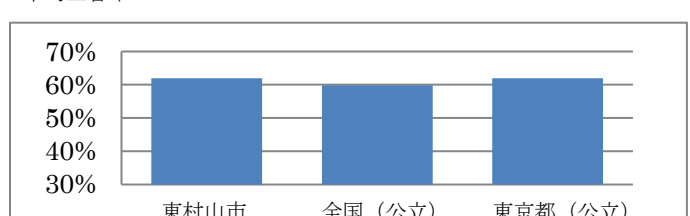
＜手だて＞

「読むこと」では、根拠を明確にして、構成や展開を捉えて読み書きすることが大切である。生徒が文章から、まとめごとの内容の構成、表現、文章全体における役割を捉えるとともに、日々の授業で文章の構成を理解できるようワークシート等の工夫を行うこと必要である。また、文章だけでなく、図や表、グラフなど様々な資料から、必要な情報を読み取る作業を取り入れ、読み取った内容を生徒同士で意見交換する活動を行うことも大切である。

話や文章の中で適切な活用の仕方を理解できるようにするために、生徒が自分の考えを文章で表現したり、対話を通して意見を交換したりする場面を多く設定することで、生徒が様々な表現方法について適切な活用の仕方を考える場面を設定することが必要である。

【数学】

＜平均正答率＞



＜課題点＞

「関数」では、「グラフ上の点Pのy座標と点Qのy座標の差を、事象に即して解釈すること」や「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること」に課題が見られた。また、「資料の活用」では、「資料を整理した表から最頻値を読み取ること」に課題が見られた。

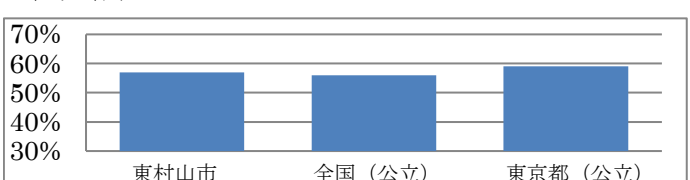
＜手だて＞

「関数」では、東村山市版数学基礎ドリル等を活用し繰り返し問題に取り組み、基礎的・基本的な知識や技能を定着させる活動と、身に付けた知識や技能を活用する活動を生徒の学習の定着の様子に応じてバランスよく取り入れることが重要である。また、問題解決の方法を数学的に説明できるようにするために、グラフの情報を読み取ったりする活動や、グラフを活用し、その特徴を事象に戻して考える活動を充実させることが大切である。

資料を適切に読み取ることができるようにするために、目的に応じて生徒が資料を整理する活動を取り入れるとともに、判断の理由を説明する活動を取り入れる必要がある。

【英語】

＜平均正答率＞



＜課題点＞

「読むこと」では、「日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ること」や、「まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解すること」に課題が見られた。「書くこと」では「与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文や一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書くこと」に課題が見られた。

＜手だて＞

「読むこと」では、単語や文章の構成などの基礎的・基本的な知識や技能を定着させる活動に重点を置き、さらに身に付けた知識や技能を活用させる場面を適切に取り入れていくことが重要である。その際、文章の読み取りにおいて重要な箇所を繰り返し注目させたり、様々な単語を繰り返し使用したりすることで知識や技能が定着させることが必要である。

3人称単数現在の英文を正しく書くために、「I」「You」以外の主語や無生物が主語になる英文を書く機会を設け、様々な形式の英文を書く活動を長期的に繰り返し行うことが大切である。その際、「読む」「書く」以外に、「誤りを修正する」活動を取り入れ、生徒の知識の定着に資するよう配慮する必要がある。

全体的な傾向として

国語・数学・英語ともに全国の平均値を上回り、さらに国語と数学は東京都の平均値も上回っている。国語に関しては、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を問う問題や「書くこと」において伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く問題で無回答が多い傾向があった。数学に関しては、「資料の活用」において、資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題で無回答が多い傾向が見られた。英語に関しては、「聞くこと」において、音声メッセージを聞き、適切に文章で答える問題で無回答が多い傾向が見られた。いずれも、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図り、問題に取り組めるようにしていくことが重要である。

＜生活習慣や学習状況等に関すること＞

- ・「学校の授業時間以外に、普段、1日2時間以上勉強する」(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む)と回答した生徒の割合は、昨年と同様に約32.4%であった。そのように回答した生徒は、2時間未満と回答した生徒に比べ、教科に関する調査の平均正答率が依然として高い傾向にある。
 - ・「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりの読書時間(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)が1時間より少ない」と回答した生徒の割合は、昨年より3ポイント増加し、89.6%を占めていた。
- 本市で作成している「家庭学習の手引き書」を保護者会で積極的に紹介し活用していくとともに、家庭学習の習慣を確立するために、1時間から2時間程度の学習を自分で計画を立てて取り組むことができる力を育成していくことが重要性である。読書に関しても、「読書が好き」という生徒の育成のために、学校図書館専任司書の効果的な活用や、委員会活動等で読書活動を推進するための活動を促すことが大切である。